執政直江兼続屋敷跡

執政（しっせい）として政治や経済、軍事などすべてを上杉景勝から任されていた直江兼続。上杉景勝の家臣。『佐竹文書』慶長5年（1600）8月3日、兼続は、大沼郡の奉行、山田喜右衛門に屋敷普請は無用と指示しています。屋敷は、蒲生氏時代には町野家の屋敷で、3代忠郷の時には、山鹿素行がこの場所で生まれています。『蒲生忠郷時代の城下絵図』や『会津鑑』の保科時代から屋敷は、六十間半・一町四方(約109m)ありました。面積は約3300坪～3600坪。屋敷内には明治時代まで「直江清水」がありました。現在はＪＲのアパートや住宅になっています。

近くにあった清水の水神様を祀る「水波女神」の石碑

直江兼続の屋敷は、忠臣蔵で知られる町野家屋敷跡の山鹿素行生誕地でもあります。素行は元和8年(1662)8月16日、この屋敷で生まれ、6歳の時に江戸へ行きます。素行は、江戸で朱子学を本来の姿に戻すべきと批判したことから、幕府の重鎮、会津藩主の保科正之の命により赤穂藩へ流されました。

昭和38年（1963）撮影